

東北プロジェクト、事前学習会で講演会が開催される

2017年6月22日（木）、東北プロジェクトの事前学習会で、講演会が開催された。東松山キャンパス図書館 AV ホールにて、河北新報社より武田真一防災教育室長をお招きして、ご講演を頂いた。武田氏には9月下旬に予定されている現地研修の現地コーディネーターをお願いしている。その視点から、「被災地で何を見て、何を聞き、何を考えるか」との講話を頂いた。



武田氏は、震災から6年が経過し、復旧あるいは復興は数字上進展したものの、「震災は終わっていない」ことを確認すべきであるという。また、被災地支援への倦怠感が広がる中で、「震災を忘れない」とはどういう態度を意味するのかを考える必要性を力説された。そして、学生には「地域や地方から社会を問う視点を深める」ことが如何に21世紀の国のかたちを問い直す有効な手段となるか、また、「震災・災害を社会参加の出発点にする」ことが如何に自分の進路選択や仕事の意味を問い直す土台になるかを訴えられた。

豊富な写真資料を基にした1時間余りのお話に対し、学生からも多くの質問が出され、その後も1時間を超えて熱心な質疑応答が交わされた。

河北新報社は、積極的に展開している「むすび塾」「次世代塾」といった震災の記憶や経験を無駄にしないための様々な試みを積極的に展開されている。我々の宮城県視察でも、武田氏はそうした経験を惜しみなく提供して下さる。学生たちのモチベーションも高まっている。

